



★間接的嚥下訓練法(バルーン法)

嚥下訓練には、食べ物を用いず器具を用いて食物の通過を良くする訓練があります。今回は、その一つの方法をご紹介します。

バルーン拡張法(=バルーン法)とは、バルーンカテーテルを用いて食道入口部(上部食道括約筋)を機械的に拡張し、食塊の咽頭通過を改善する手技である。



【対象】 球麻痺や輪状咽頭嚥下障害など食道入口部開大不全のある症例

【適応】 嚥下造影検査で即時効果が得られるなど症例ごとに判断する。

「局所の炎症所見がない」、「腫瘍など外部からの圧迫所見がない」、「全身状態が良好であること」を前提条件として以下の①～③を満たしたもの。①食道入口部の通過障害があること。②代償法で改善が得られないこと。③バルーン法の実施に耐えられること。※日本摂食嚥下リハビリテーション学会(e-ラーニング資料)より引用)

【方法】 球状バルーンによる単純・嚥下同時引き抜き法



①カテーテルを食道内に挿入



②バルーンをシリンジで拡張



③食道入口部まで引き上げ

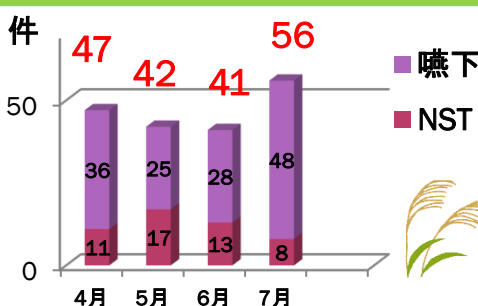


④嚥下と同時に引き抜く

※実施している患者さんに許可を得て掲載させていただきました。

担当:言語聴覚士 名出 美紀

月別栄養サポートチーム加算件数



3名のスタッフ専任メンバーの仲間入りしました！

7月に当院から3名のスタッフが、香川大学病院の40時間のNST研修に参加してきました。

西尾薬剤師、山原管理栄養士、山本看護師がNST専任メンバーに仲間入りし、これからカンファレンスや回診に参加してくれます。パワーアップしたNSTチームでまた頑張っていきます。

